



創立昭和46年  
(Founded 1971)

日本学術会議協力  
学術研究団体

2013年2月(102号) No. 102, February 2013

Web版

# CAJ News

日本コミュニケーション学会ニュースレター

ホームページ: <http://www.caj1971.com>

日本コミュニケーション学会 事務局

〒480-1197 愛知県長久手市片平9

愛知淑徳大学メディアプロデュース学部 五島研究室内

電話0561-62-4111 & FAX0561-63-9308 e-mail: [cajoffice@caj1971.com](mailto:cajoffice@caj1971.com)



## あらためて「コミュニケーション力」を考える

会長 宮原 哲 (西南学院大学)

「コミュニケーション、8年連続第一位!」という見出しが躍ると、CAJ 会員としては気になります。日本経団連の調査によると、企業が採用の際最も重視するのが「コミュニケーション能力」というのです。

ところが、です。他の能力として、主体性、協調性、チャレンジ精神、誠実性、責任感などが挙げられています。コミュニケーション研究や教育に携わる私たちからすれば、これらも人間のシンボル活動の一環なのに、と違和感を抱きます。企業の言う「コミュニケーション能力」が、思っていることを人に伝え、相手の言うことを理解する、いわゆる「やり取り」の程度でしかないことに、落胆します。

メッセージのやり取りもですが、人との関わり合いを通して気づき、築くのが自分、その自分をさらに高め、その結果社会に貢献する一連の過程が大切。となれば、人間の生き方、哲学がコミュニケーションと言えます。関係性の中で「自らの分け前」をわきまえて行動した結果、相手や周囲(例えば会社)も発展するのでしょうか。

その「自分の作り方」には当然文化差があります。「まずは自分」と、周囲から独立した欧米的な自己観と比べ、日本では「みんながどう思うか」に関心があり、関係性の中、つまり人と人との間に自己を見出そうとします。だから、誰を指すのか不透明な、でも大きな影響力を持つ「みんな」、「世間」が説得力を持つのでしょうか。

人目を気にすることも大切ですが、要はバランス。周囲に流され過ぎると、そのうち自分そのものがなくなってしまいます。同時に人との絆を強めるためには、社会規範を理解し、適度な自己抑制が求められるでしょう。独立、相互依存自己観のどちらが、という問題ではなく、両者をバランスよく維持するのも能力です。

こんな背景があるから CAJ が果たすべき社会貢献は大きく、真価が問われているのです。企業も CSR (社会責任) 重視から、最近では CSV (Creating Shared Values) へと、積極的な役割を追求しています。社会が求める「コミュニケーション能力」とは、地域、年代、性などの違いを超え、社会で共有できる価値の創造の一翼を担えることを指し、そんな人材を研究、教育を通して育成することが私たちの活動の根幹です。

今年の年次大会は、6月22・23日に立教大学で「コミュニケーション学と教育」をテーマに開催します。人間だからこそ携わるのが教育ですが、いじめや差別、モンスター・ペアレント、教師のメンタル・ヘルスなど、問題山積です。コミュニケーション学の角度から問題提起し、新しい展望を開く大会にしましょう。

今年度も日程が許す限り支部大会に出席しました。10月20日、「これからのコミュニケーション」のテーマで開催された東北支部会では、研究発表に加え、中高の教師に自分で考える体験を生徒にさせることの意義と問題を語ってもらいました。青森公立大の学生2名が大会運営のお手伝いに加え、シンポジウムにも参加しました。大学で学んだことを語る瞳は、これからの時代を託すことができる自信の表れでした。

12月8日の中部大会では、異文化教育の実践例から、院生の「君が代」に関する研究、完成直後の博士論文の発表まで、中身の濃い半日を体験しました。9日には7回目となる、広島大学病院医療コミュニケーション教育研究セミナーとの共催である、中四国支部大会を訪問しました。医療、教育、映画など、さまざまな領域をコミュニケーション学の立場から考察する、盛りだくさんの大会でした。

各支部とも、それぞれの特色を生かした、でも、コミュニケーション能力の研究と教育という点でつながり合っていることが確認できました。今年も CAJ が発展することを期待、確信しています。

## 第43回年次大会会場校案内

第43回年次大会の開催日が2013年6月22～23日（土・日）に正式に決まりました。大会会場は、東京都内の立教大学池袋キャンパスを予定しております。池袋キャンパスは、JR各線、地下鉄丸ノ内線、有楽町線、副都心線「池袋駅」を降りて徒歩7分という、非常に交通の便のよい場所にあります。

今回の年次大会は「コミュニケーション学と教育」がテーマであり、基調講演の他にも大会テーマに関連した特別企画を実施し、コミュニケーションと教育の問題を多角的な視点から探っていきたいと考えております。CAJ理事および大会実行委員会一同、大会の盛り上がりにも全力を注いでいく所存ではありますが、何といたっても大会の主役は参加していただける会員の方です。今大会より、個人研究発表と企画セッションの両方の申し込みを受け付けておりますので、奮ってご応募いただけるようお願いいたします。また、発表の有無にかかわらず、出来るだけ多くの方にご来場いただき、年次大会を研究交流の場として活用していただければ幸いです。

（第43回年次大会 大会実行委員長・師岡淳也）

**会場：**立教大学池袋キャンパス（〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1）

**大会テーマ：**コミュニケーション学と教育

**大会参加費（懇親会費は含みません）：**振込みによる事前申し込み4,000円、当日会費4,500円、非会員5,000円

**交通アクセス：**大学ホームページ（<http://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/direction/>）をご覧ください。

**参加申込方法と宿泊について：**本大会でも前回同様、「トップツアー」を通じた Web 上での学会参加申込となります。準備が整い次第、学会特別プランとしていくつかのホテルも一緒にご紹介いたします。申込は、大会案内とともに送られる申込方法に従ってお手続きのほどお願いいたします。

# 学 術 局 報 告

## 学術局セッション報告

### 東北支部研究大会

2012年10月20日、青森県観光物産館アスパムにて開催された東北支部研究大会に、学術局として吉武が参加した。左右に伸びた半島の間に広がる「青」の美しさが、大会を前に気持ち高まる私の心を鎮めた。

大会前半は、内田加奈美氏、五十嵐紀子氏、川内規会氏・山田真司氏らによる3本の研究発表がなされた。どの発表からも発表者の研究テーマに対する熱い思いがひしひし伝わり、フロアからの熱心な質問とともに支部大会に花を添えた。

後半に開かれたシンポジウム「教育現場のコミュニケーション問題と対策：中高大の教員によるオープン・ディスカッション」では、蔵元礼子氏による大学での実践に加え、地元中学校の教員である野呂宜史氏、高等学校教員の木村育氏にご参加いただき、中高の教育現場まで射程に入れたダイナミックな議論が展開された。社会のルールとの折り合いを重視した学級作り、小さなコミュニティから「外」に出る際に必要なコミュニケーション能力やソーシャル・スキルにむけたアイデアあふれるキャリア教育、言葉づかいや聞くことの重要性を意識した国語の授業実践など、両先生的情熱と真摯な取り組みを耳にし、高等教育機関である大学での実践を内省しつつ、努力を惜しまない現場の先生方を支援するコミュニケーション教育研究への使命感を胸に抱いた。また、学生アルバイトとしてお手伝いいただいた三浦和花子さんと藤島綾さんの姿も印象的だった。彼女らの質疑応答への積極的姿勢と鋭い洞察は、蔵元先生の日頃のコミュニケーション教育と実践の賜物だろう。

大会テーマである「これからのコミュニケーション」にふさわしく、閉塞感が漂う現代社会にあって、東日本大震災の傷跡が残る東北の地に一筋の光明を見出した気がしたのは私だけではないだろう。東北支部のさらなる充実と本学会に対する貢献への期待がますます高まるよい大会であった。また、東北支部コミュニティの皆さんのホスピタリティに感謝したい。今思えば、コートを羽織るまでもないほどの少しだけ冷たい空気も、北国である青森がくれたあたたかい出迎えだったのだろう。

## 第43回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2013年6月22日(土)、23日(日)に、立教大学(東京都豊島区)で第43回年次大会を開催いたします。本年度の大会テーマは「コミュニケーション学と教育(Communication Studies and Education)」です。このテーマのもと、多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表とパネルディスカッションなどの企画を募集いたします。とくに今大会から、研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を応募します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会と国際社会に有益な企画をぜひお寄せください。

研究発表と企画セッションの応募にあたり、プログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください。

### ① プログラム掲載用要旨

和文800字以内、英文300語以内。

### ② プロシーディングス掲載用要旨

和文要旨は3000字以内(脚注を含む)、英文は1000語以内(脚注を含む)。

いずれも、A4判2枚にすべてが収めること。

なお今大会の募集から、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字(プログラム用)と3000字(プロシーディングス用)の要旨に収め、発表者の要旨を別々に含める必要はなくなりました。

詳しくは、学会ホームページの「[プロシーディングス執筆規定](#)」を参照のこと。

応募の際は、メールの題目/subjectに「CAJ submission: 氏名」と必ず明記し、担当理事の清宮宛(kiyomiya@seinan-gu.ac.jp)まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていただけない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。

応募締め切りは2013年2月20日(水)となりますので、期日には十分にご留意ください。大会の研究発表では、第一筆者(及び発表をおこなう当事者)がCAJの会員であることが規定によって定められています。申込みまでにCAJの会員登録をお済ませいただき、会員番号を明記ください。なお、会員番号は、本

ニュースレターのあて名部分に印字されています。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ (<http://www.caj1971.com/>) でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく存じます。

## Call for Papers for the 43rd CAJ Annual Convention

The Communication Association of Japan will hold its 43rd Annual Convention on Saturday, June 22nd and Sunday, June 23rd 2013, at Saint Paul's University (Rikkyo University) in Toshima-ku, Tokyo. The theme of the Convention will be "Communication Studies and Education." CAJ will invite proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, in the 43rd convention, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the CAJ members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session's objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the CAJ members.

Those wishing to propose a paper presentation, a panel discussion, and a theme session should send an e-mail with an MS Word file of the abstract as an attachment to Toru Kiyomiya, Deputy Director of Academic Affairs, at [kiyomiya@seinan-gu.ac.jp](mailto:kiyomiya@seinan-gu.ac.jp) by Wednesday, February 20th, 2013.

We will publish the conference proceedings with abstracts. Hence two forms of abstracts should be submitted.

- (1) For the convention program:  
300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese.
- (2) For the proceedings:  
Maximum of 1000 words in English (*including* foot/endnotes) or 3000 characters in Japanese (*including* foot/endnotes). The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4-size paper.

Refer to the Submission Guidelines for CAJ proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary.

Also, at your submission, please specifically type "CAJ submission: [name]" on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of the paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited to the CAJ members. If these responsible persons do not have the CAJ membership, please join the CAJ before submission and indicate your membership number on your paper: the number appears on the mailing label on the envelope of this letter. We also recommend that you clarify your current membership status because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the CAJ homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements: "Submission Guidelines for CAJ Proceedings." We look forward to seeing you in Tokyo!

## 学会賞応募に関するお知らせ

当学会では、学会賞審査対象の著書を常時募集しております。今年度は、2012年1月1日から12月31日に出版された本学会員によるオリジナルの著作が対象となります。共著・分担執筆による著作については、すべての執筆者が本学会員である必要はありませんが、著作への本学会員の貢献が顕著と認められるものについて審査の対象とします。応募資格に関して不明な点がある場合は、事前に下記問い合わせ先にお問い合わせください。

締め切りは、2013年3月9日（必着）となります。応募される会員は、下記募集要領に従い応募してください。なお審査結果の報告は、年次大会の授賞式での発表に代えさせていただきます。

応募資格：正会員（自薦、他薦は問いません）。



応募方法：希望者は審査用著書3冊とともに、応募する部門（「研究書の部」もしくは「教科書・啓蒙書の部」のいずれか）を特定した上で、1000字程度の著作概略および著者の名前・連絡先を明記したものを添えて応募してください（尚、著書は返却いたしませんのでご了承ください）。

応募数量：一人一冊

問い合わせ先および審査書類一式提出先：学術局長守崎誠一

住所：564-8680大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学外国語学部

電話&ファックス：06-6368-0484

E-mail:morisaki@kansai-u.ac.jp

## 学会誌に関するお知らせ

2012年7月31日に今年度の本学会学会誌（『ヒューマン・コミュニケーション研究』『スピーチ・コミュニケーション教育』）への論文投稿を締め切りました。今回は計12本の応募があり、査読委員会委員による厳正な査読の結果、4本の掲載が決定しました。ご応募いただきました先生方およびお忙しい中ご協力いただきました査読委員の先生方、ありがとうございます。

今後、投稿論文の修正・訂正を経て、校正に入り、6月上旬には皆さまの手元に届きますよう進める予定です。また、投稿論文の他にも、基調講演や特別パネルの掲載を進めておりますのでご期待ください。

学会誌とは、年次大会と並び学会を支える二本柱の一本です。学会をより活気づけるべく、これまで学術局および理事会において「ジャーナル改革」の議論を重ねてきましたが、このたび前理事会にて改革案の全体像がほぼ確定しました。大きくは以下の二点です。

(1) 本学会の両輪だった『ヒューマン・コミュニケーション研究』と『スピーチ・コミュニケーション教育』を統合し、新たに『日本コミュニケーション研究』（英語名は *Japanese Journal of Communication Studies*）を刊行します。日本のコミュニケーション研究は領域横断的になり、これまでの分類ではその多様性が捉えきれない現状です。こうした既存の枠組みを包括的に捉え直すことで、これまで蓄積された研究をもとに日本におけるコミュニケーション研究を発展させることがねらいです。しかも発行は年1巻2号を基本とし、研究がジャーナルに反映されるまでのプロセスが円滑になります。半年に一度お届けする「知的刺激」をお楽しみに。

(2) 査読システムに「再査読」を導入します。これまでは査読結果がBCの場合「掲載不可」となり、次に可能な掲載まで最短でも1年半待たねばなりませんでしたが。今回の改革では、BCと判断された場合、加筆修正後一度だけ1年以内に再投稿が認められ、前回の査読結果の指摘をもとに可否で判定する再査読を行うことにしました。この改定により、ジャーナルの質を維持しつつも掲載への門戸を広げることができるようになります。

以上のような改革に合わせた投稿規程等の整備にともない、引き続き改革の詳細を詰めて行く予定です。

本学会学会誌への論文投稿は1年を通して可能です。原稿は、最新号の巻末および学会公式ウェブサイトに掲載されている「研究論文投稿規定」および「学会誌執筆要領」に従い、作成してください。ただし、改革の一環として今年度より、ジャーナル専用のメールアドレスに原稿のファイルを添付して送信するように投稿方法を変更しています。(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)A4判用紙に書くべき情報に「ファイル作成に使用した機種」を加えたもの、以上3つを添付ファイルでお送りください。

メールアドレスは以下の通りです。

[journal@caj1971.com](mailto:journal@caj1971.com)

次号の締め切りは7月末日です。2012年8月1日から2013年7月31日(必着)の間に投稿された論文は、2013年度の学会誌すなわち『日本コミュニケーション研究』2013年度第1号の掲載候補論文として、また、2013年8月1日から2014年1月31日に投稿された論文は次号の候補論文として査読・審査を行います。

なお、ジャーナル投稿に関する問い合わせは、ジャーナル担当理事・吉武（上記アドレス）までお寄せください。

前回のニュースレターでも書きましたが、学会・ジャーナルを本当の意味で支えるのは、現在システムではなく、「人」、すなわち皆様です。ふるってご投稿ください。皆さまの熱気あふれる論考を、ぜひ『日本コミュニケーション研究』の最初の号へ！

## 事務局報告

### 1. 会費納入のお願い

3月初旬に会費未納の方に振込用紙をお送りする予定です。今年度の会費の再請求は今回で最後となります。お早めにお支払いいただきますようお願い申し上げます。会費2年分滞納でジャーナルの最新号を受け

取ることができず、また3年分滞納で、除名処分の対象となりますのでご注意ください。

## **2. 住所等変更届のお願い**

住所や所属が変わられた場合には、速やかに学会支援機構までご連絡いただくか、学会ホームページのWebシステム上で変更をお願い致します。変更の際には、会員番号とパスワードが必要になります。会員番号は学会支援機構からの郵便物の宛名の下に記載されている10桁の番号です。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていればご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、従来通りのメールや葉書等でのご連絡も受け付けますが、学会事務局ではなく、学会支援機構までお願い致します。

## **3. 学会発刊物の購入申込みと閲覧、複写申込みについて**

ジャーナルバックナンバー、記念論文集、大会プロシーディングス等の学会発刊物をお求めになりたい場合は、学会支援機構にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナル、記念論文集については、国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。

# 広報局便り

## 1) 第43回年次大会の広報局活動の予定

第43回大会に向けて、広報局では以下の活動を予定しています。

- ① プログラム掲載広告の募集：2013年1月に、例年通り、以前協力いただいた各社および新たな企業に協力依頼の案内を出す予定です。会員の皆様におかれましては、心当たりのある企業を広報局にご紹介いただきますようお願いいたします。
- ② 書籍・教育機材の展示の募集：これに関しても、例年通り、協力依頼の案内を開始する予定です。プログラム広告同様、以前協力いただいた各社および新たな企業に案内を出す予定です。会員の皆様におかれましては、心当たりのある企業を広報局にご紹介いただきますようお願いいたします。
- ③ CAJの研究活動内容に関連する研究活動を行っている研究会に、本大会の情報をお伝えします。会員の皆さまで、ご所属されていたり、ご活動されている研究会がありましたら、ぜひ広報局にご一報ください。広報局より、それらの研究会にCAJ年次大会のご案内をいたします。

## 2) 各支部の年次大会等の予定

秋の各支部大会及び研究会の報告、および春期の支部大会／研究会の予定等が本号の「支部ニュース」に掲載されておりますのでご覧下さい。次号では、春期の支部活動の報告を掲載する予定です。

## 3) 広報局からのお知らせ

### ① ニュースレター（Web版）の掲載の開始

初めての試みとして、学会ニュースレター101号をHP掲載用に編集し、HP (<http://www.caj1971.com>) に掲載しました。今号もWeb版ニュースレターを発行し、HPにアップする予定です。

### ② ジャーナル投稿専用アドレスの設定と運用の開始

学術局と連携し、ジャーナル専用のメールアドレス ([journal@caj1971.com](mailto:journal@caj1971.com)) を設定し、次号投稿の受付を開始しました。

### ③ ホームページなどに関して、ご意見やご提言があれば、広報局まで、お気軽にご連絡をお願いいたします。

## 会員著書紹介

鈴木健人・鈴木 健・塚原康博編著

『問題解決のコミュニケーション—学際的アプローチ—』白桃書房、2012年10月刊行。

本書は、大学生はもとより一般の読者すべてを対象としています。本書は、さまざまな学問分野をバックグラウンドにもつ大学の教員が執筆として参加し、さまざまな学問分野からコミュニケーションにアプローチしています。現代社会では、人間関係の潤滑油としてコミュニケーションの重要性が指摘されていますが、本書では、コミュニケーションがこのような役割にとどまらず、現代社会が直面している問題を解決する役割も持ち合わせていると考えています。そして、問題解決のためのコミュニケーションとは、各人がそれに必要な知識を身に着けるのに加えて、各人がそれぞれの立場に応じて、たとえば、リーダー、政治家、投票者などとして、さらには、組織の一員、外国人と接する日本人などとして、問題解決のためにふさわしい行動をとることが重要であると考えており、本書がそのためのヒントとなることを願っています。会員の皆様にもぜひご一読いただくと幸いです。

## 支 部 ニ ュ ー ス

### ●北海道支部

支部長 町田佳世子

2012年11月10日(土) 13:30~17:30に第21回(2012年度)北海道支部研究大会が藤女子大学北16条キャンパスにて開催されました。今回のテーマは「分野別コミュニケーションを考える」とし、支部総会と研究発表、シンポジウムが行われました。

「分野別コミュニケーション」という言葉は、2012年6月に開催された第42回年次大会のコミュニケーション教育研究会パネルで、森口稔先生が質問・コメントの中で「英語教育にESPがあるように、コミュニケーション教育にも分野別のコミュニケーションを想定することができるのかもしれない」とおっしゃったことに示唆を得て、北海道支部でぜひ考えてみたいと思い設定しました。

研究発表は、Charles MacLarty 氏（北海道情報大学）による「Breaking The Barriers: How Can We Be Better Intercultural Communicators in the 21<sup>st</sup> Century?」、佐々木智之氏（北海道工業大学）による「ディベート授業によるクリティカルシンキング能力の育成」、町田佳世子（札幌市立大学）による「就職活動を控えた大学生が考える社会人コミュニケーション能力」の3件が行われました。

シンポジウムのテーマは今回の大会テーマと同じ「分野別コミュニケーションを考える」で、平野たまみ氏（株式会社あるた出版代表取締役）、川内規会氏（青森県立保健大学・東北支部）、森越京子氏（北星学園大学短期大学部・北海道支部）の3名のパネリストをお迎えして行われました。平野たまみ氏は企業の立場からどのようなコミュニケーションを必要としているかをお話くださいました。川内規会氏には、医療コミュニケーションの観点から、医療現場でのコミュニケーションの特殊性や困難な課題を取り上げていただき、「伝わっているはず」「分かったつもり」が大きな落とし穴になることをお話くださいました。森越京子氏には北海道の代表的産業であるホスピタリティインダストリーにおけるコミュニケーションについてご報告いただきました。ホスピタリティインダストリーはサービスを提供する側だけでなく受ける側もその質に関わる度合いが大きいことなど、コミュニケーションを考える上で示唆に富むお話でした。フロアからの質問やコメントも盛り上がり充実したシンポジウムであったと考えています。

今年度の支部研究大会には、東北支部の川内先生をパネリストとしてお迎えすることができ、支部間の交流という目標にも近づけたと思っております。出席者は会員、非会員合わせて22名でした。

2012年度北海道支部研究会は下記の日程で開催いたします。2013年2月8日まで研究発表を募集しております。ご参加をお待ちしております。

2012年度北海道支部研究会

日時：2013年3月16日(土) 午後（時間は後日決定）

場所：藤女子大学北16条キャンパス



第21回支部研究大会（研究発表）



第21回支部研究大会（シンポジウム）

## ●東北支部

支部長 小林 葉子

2012年10月20日(土)、青森県観光物産館アスパムにて、第13回東北支部研究大会を開催致しました。今回使用出来ました会議室は、陸奥湾のみならず北海道までも臨む・9階会議室「津軽」でした。休憩時には参加者一同で、東北支部名物のお菓子コーナーに鎮座する各地の名物菓子を食しつつ、その素晴らしい眺めも堪能致しました。

大会プログラム「これからのコミュニケーション」

- 開会式（東北支部長挨拶・CAJ 宮原哲会長挨拶）
- 研究発表（敬称略）

1. 内田 加奈美（麗澤大学・関東支部）：「大学生の英語授業にラボ・ライブラリーを導入する意義」



2. 五十嵐 紀子（新潟医療福祉大学）：「学生による授業評価を考える ～不満を語ることの意味～」
3. 川内 規会・山田 真司（青森県立保健大学）：「在住外国人の使用言語から捉える医療者とのコミュニケーション課題—医療通訳の可能性を考えながら—」
- シンポジウム「教育現場のコミュニケーション問題と対策：中高大の教員によるオープン・ディスカッション」：藏元 礼子（青森公立大学、コーディネーター・シンポジスト）、野呂 宜史（外ヶ浜町立平館中学校）、木村 育（青森県立六ヶ所高等学校）、吉武 正樹（学術局・福岡教育大学）
  - 支部総会、閉会式、懇親会（同じアスパム内の郷土料理店「西村」）

今後の予定

- 2013年2月東北支部ニューズレター（vol. 20）を発行予定
  - 2013年3月仙台にて定例支部会開催予定（内容：研究・授業発表、支部会議など）
  - 2013年6月「東北支部20周年記念誌」発行予定
- なお、ニューズレターは紙媒体で発行・郵送した後、支部 HP 担当者にウェブにも掲載してもらっています。  
<http://www.caj1971.com/~tohoku/>

## ●中部支部

支部長 福本 明子

2012年10月以降の中部支部の活動を報告致します。

### 1) 2012年度 中部支部大会

2012年度の中部支部大会が、12月8日(土)に愛知淑徳大学の星が丘キャンパスにて開催されました。支部大会には、宮原会長、五島副会長を含む12名（懇親会には11名）の参加がありました。初参加の会員の方も来られ、多様な内容の発表を学びつつ、楽しく開催することができました。

セッション1：実践報告 佐藤良子先生（愛知淑徳大学）

「アウトリーチ活動としての異文化コミュニケーション教育—一般社団法人海外事業支援センター名古屋を事例にして—」

セッション2：院生研究 発表 渡辺友穂（静岡県立大学）

「ワールド・ミュージックとしての『君が代』」

セッション3：博士論文 発表 宮崎 新 先生（名古屋外国語大学）

“Becoming a functioning member of the collegiate culture: how cellphone communication affects first-year college students' self and identity in college transition.”

セッション4：博士論文発表 森泉 哲 先生（南山大学）

「ソーシャルサポート要請の日米比較—家族コミュニケーションパターンとの関連—」

懇親会・今後の支部活動について意見交換

### 2) 今後の活動予定

- ・書評プロジェクト（ニューズレターへの掲載、年次大会での支部パネル）
- ・ニューズレターの発行（3月）

支部の活動（支部大会、書評プロジェクト、ニューズレター）については、支部のホームページ(<http://www.caj1971.com/~chubu/>)に掲載しております。書評原稿、募集しております。詳細はウェブをご覧ください。



## ●関西支部

支部長 森口 稔

11月に開催した秋季研究会で、関西支部は二つの試みを行いました。一つは、落語をテーマとすること、もう一つはライトニングトークという発表形式です。研究会前半のライトニングトークでは、一人5分で、さまざまな角度から落語についての発表がありました。持ち時間が短いため、発表者と聴衆が一種の緊張感を共有した中身の濃いものでした。後半は、プロの落語家をお呼びして落語を聞いた後、フロアからの質問用紙を元にインタビューを行いました。「ウケないときにどうするか」など、コミュニケーション学の切り込むべき話題も出て、有意義かつ楽しい時間を持つことができました。

テーマ：日本の落語とコミュニケーション

日時：2012年11月10日(土) 13:30-16:30

場所：大阪キリスト教短期大学

参加者：研究会27名、懇親会12名

プログラム：

解説「ライトニングトークと落語について」

森口 稔（京都外国語大学）

ライトニングトーク

司会：守崎誠一（関西大学）

「スタンドアップコメディ」

菊川和彦（夙川学院短期大学）

「分析的コミュニケーションモデルに位置付ける「笑い」の効果」

北本晃治（帝塚山大学）

「英語落語とワーキングメモリ」

倉本充子（広島国際大学）

「協調コミュニケーションとジェスチャーの理解」

小山哲春（京都ノートルダム女子大学）

「映画・テレビドラマの中の「落語家」表象～落語家は何に結びつけられるか～」

日高勝之（立命館大学）

「話術というもの一巧みな講演とは？」

森川知史（京都文教短期大学）

落語とインタビュー

落語家・月亭遊方

フリーディスカッション

懇親会：個室和食 灯花



## ●中国・四国支部

支部長 高永 茂

第15回 CAJ 中国四国支部大会を昨年の12月8日・9日に広島大学歯学部で開催しました。今回も医療コミュニケーション教育研究セミナーと共同開催の形をとりました。第1日目は50名の参加があり、これまでで最高的人数になりました。第2日目も20名を越える参加者があり、熱い議論が展開されました。今回の支部大会では、伊東こずえ先生（九州大学）と柳澤浩哉先生（広島大学）の講演のほか、8名の方の研究発表がありました。



寒いなか、特に2日目は雪の降りしきるなか、多くの皆さまに足を運んでいただき、主催者として心から感謝したいと思います。会員のみならず一般の方の参加も多くなり、支部大会が年を追うごとに充実してきていることを実感しました。

2013年度の第16回 CAJ 中国四国支部大会は、12月7日(土)・8日(日)に広島市で開催する予定です。次回も多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

## ●九州支部

支部長 伊佐 雅子

### 1) 2012年度 第19回九州支部大会の開催

九州支部は第19回支部大会を2012年10月6日(土)に、熊本学園大学で開催しました。今年の大会テーマは「国際化の時代を生きる－コミュニケーション学にできること」です。講演者に熊本学園大学の経済学部国際経済学科教授のマンガ・マンガ・ルウィン先生をお迎えし、「グローバル化と発展途上国の貧困及び貧困研究におけるコミュニケーションの課題」の演題で、講演をしていただきました。

先生は主に5つの点において述べられました。1) グローバル化と国際化とは、2) グローバル化と世界金融危機の影響、3) 発展途上国の貧困現状、4) リーマンショックとカンボジアのバラユッス藤雑貨村の事例：調査結果報告、5) 貧困研究とコミュニケーションの課題。特に、現地で信頼ある調査結果(アンケート調査や面接調査)を得るためには、言語能力、農村経済の知識、農村の生活様式、習慣、民族や宗教に関する理解が重要である、と指摘されました。最後に、上記の点に加えて、さらに重要なことは研究者が現地の人たちとの程度コミュニケーションを図れるかという、研究者のコミュニケーション能力である、と述べられました。

先生はミャンマーのご出身です。若い頃、名古屋大学大学院に留学され、経済学の博士号を取得されました。その後は、日本人の奥様と結婚され、日本の大学に長く勤務されていますので、大変日本語がお上手です。英語と日本語を巧みに使い分け、ユーモアにあふれたご講演は、楽しく感銘深いものでした。この講演を通して、カンボジアの農村の貧困調査の現状と問題点について学ぶとともに、我々が専門とするコミュニケーション研究の重要性を深く認識しました。



ご講演中のルウィン先生

研究発表では、発表件数は8件(3件は大学院生、3件は大学院修了者、2件は教員)。参加者は21名でした。支部大会後は、本館4階「グリル」で懇親会を開き、19名が参加をしました。今年もCAJ会長の宮原哲先生がご参加くださり、会員間の交流を深めることができました。

### 大会内容

**特別講演** 「グローバル化と発展途上国の貧困及び貧困研究におけるコミュニケーションの課題」

”Globalization and Poverty in Developing Countries: A Preliminary Focus on Communication Ability and Research Findings”

講演者：Dr. Maung Maung Lwin (熊本学園大学経済学部国際経済学科教授)

## 支部総会

### 研究発表(1)

- 「プレゼンテーションによる英語学習者のモチベーションの変化と考察」 増田弘子（九州大学大学院生）  
「演劇の手法によるコミュニケーション能力育成の実践研究」 青柳達也（福岡大学大学院生）  
「スポークン・ワードのコミュニケーション力～グローバルボイスへ」 宮下和子（鹿屋体育大学）

### 研究発表(2)

- 「グローバル・エリートをどう育むか」 柴崎行雄（九州大学大学院生）  
「教育の「場」を創造する力と演出する力—英米文学教育における「文学理解のプロセス」  
を議論するための一視点—」 鎌田 史（沖縄キリスト教学院大学大学院修了生）  
「「媒介物」を通して公害を伝えることの意味」 池田理知子（国際基督教大学）

### 研究発表(3)

- 「ブラジル人児童が日本の公立学校とブラジル人学校で直面する異文化コミュニケーションの問題：  
教師へのインタビュー調査を基に—」 上原芳美（沖縄キリスト教学院大学大学院修了生）  
「文化的アイデンティティ形成—沖縄の混血児の事例をもとに—」 石川直美（沖縄キリスト教学院大学大学院修了生）

## 懇親会 本館4階「グリル」

### 2) 支部紀要の発行（12月の予定）

九州支部の紀要『九州コミュニケーション研究』（第10号）（2012年）を発行する。

査読が終わり、研究論文3本と、発表論文1本の計4本を掲載することが決まった。現在、執筆者に依頼した修正原稿が届いているので、編集会議を経て、年内に発行の予定である。

### 3) 会員のための「ニューズレター」(Newsletter)の発行（12月）(年に2回)

九州支部ニューズレター（第21号）を12月に発行の予定である。内容は、今年の第19回支部大会の報告（大会実行委員長の佐藤勇治先生）、マンガ・マンガ・ルウィン先生の講演要旨、会員2名（吉武正樹先生と宮下和子先生）による特別寄稿と新支部会員2名（青柳達也氏と柴崎行雄氏）の紹介、そして来年度の「第20回記念支部大会のご案内」（畠山 均先生）である。

### 4) 来年度（2013年）の支部大会の開催校の決定

第20回支部大会を、2013年9月28日(土)に長崎純心大学で開催することが決まった。大会実行委員長は畠山均先生である。

## 学会支援機構の連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F

一般社団法人 学会支援機構 日本コミュニケーション学会担当

Tel: 03-5981-6011 Fax: 03-5981-6012 E-mail: office@asas.or.jp

## 編集後記

ニューズレター102号をお届けいたします。ちょうど一年前のニューズレター編集後記では、東日本大震災後まもなく1年が経過することへの言及がありました。それから早一年が経ち、大震災から間もなく2年が過ぎようとしています。自身が阪神淡路大震災を直接経験している身でありながら、まるで人ごとのように、メディアからの情報や昨年度の編集後記を目にしてはじめて大きな災害からの時の流れを実感する自身の姿に愕然としました。何が出来るか、という問いよりも前に、震災という大きな出来事とのコミュニケーションを保ち続ける努力こそが必要とされているのかもしれない。

広報局ニューズレター担当 小山 哲春